

夏秋ギク品種の電照による8～9月出し栽培

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

研究のねらい

夏秋ギク品種は、夏の自然日長より、さらに日長を長くすることにより開花が抑制される。そこで、夏秋ギクの電照による開花調節によって同一品種の長期出荷を図るため、電照抑制効果のある品種を調査し、8月出し及び9月出しの作型について検討した。

研究の成果

1. 電照方法

電照は、深夜4時間の光中断を行い、育苗段階から実施する。照度は、50lux(75W電球1灯/10m²)以上を確保する。

2. 適品種

電照抑制栽培に適し、また、草姿や切花品質が優れる品種として「祝酒」(黄)、「金竜」(黄)、「山陽クイーン」(赤)、「秀芳48号」(黄)、「夏の粧」(ピンク)がある。

3. 有望品種の作型(図参照)

十分な切花長を得るためには、摘心から40日の電照期間が必要である。ただし、「祝酒」の9月出しは40日間の電照では不足である。消灯から開花までの到花日数は、48～60日と品種により異なるが、8月出しと9月出しでは大差はない。

定植日は、目標開花日や消灯からの到花日数より判断して決定するが、8月出しでは4月下旬～5月上旬、9月出しでは5月下旬～6月上旬である。

図1 電照は育苗段階から

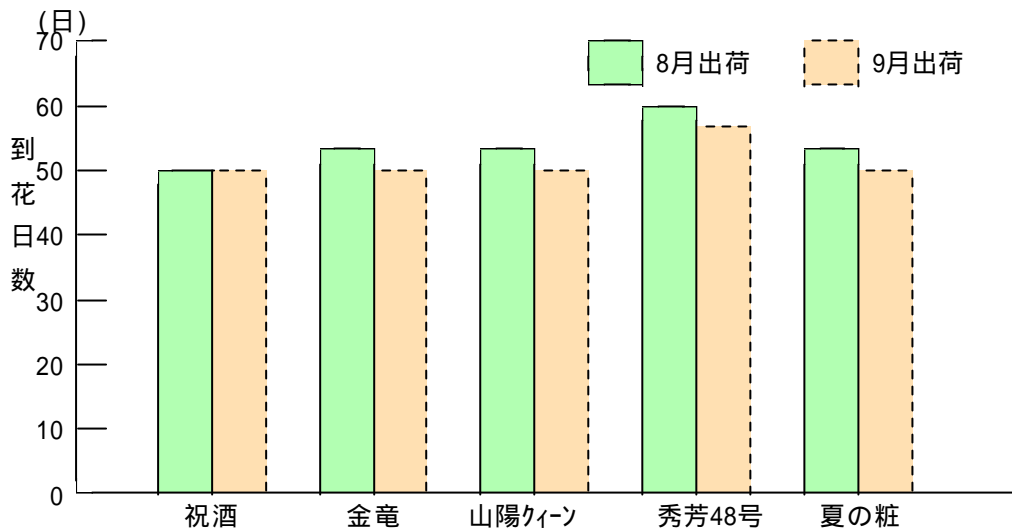
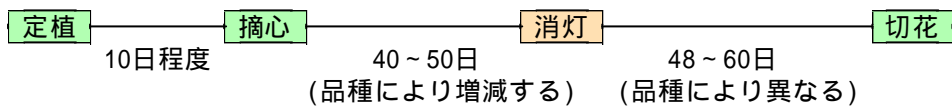


図2 電照抑制栽培における作型別、品種別の消灯からの到花日数

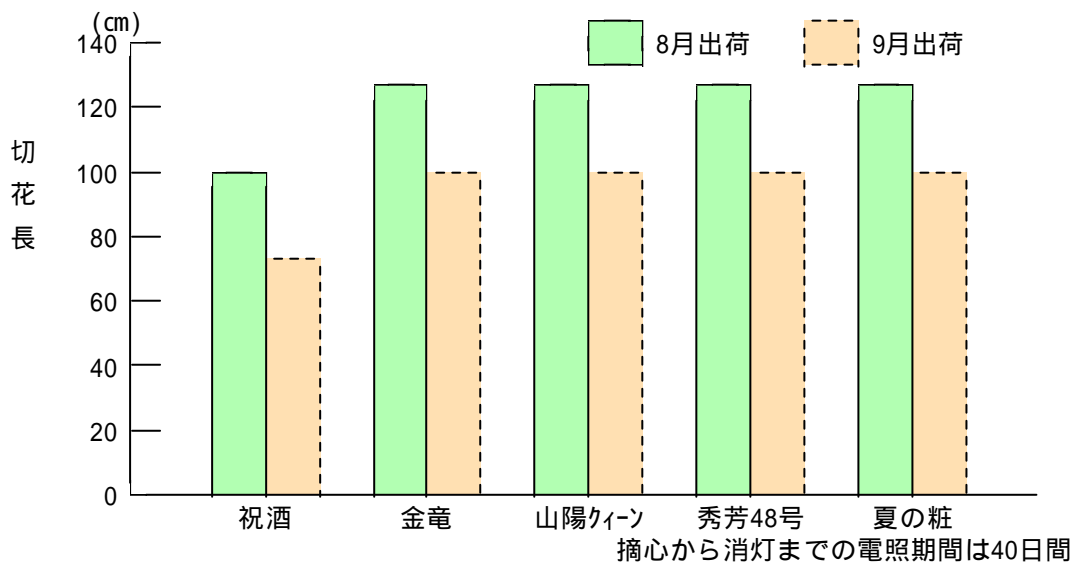


図3 電照抑制栽培における作型別、品種別の切花長